

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Pre-pregnancy body mass index and lactational mastitis: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

妊娠前ボディマス指数(BMI)と乳腺炎の関連:エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Archives of Gynecology and Obstetrics

年: 2024

10.1007/s00404-024-07872-w

筆頭著者名: 村田 強志

所属 UC 名: 福島ユニットセンター

目的:

乳腺炎は乳房に炎症をきたした状態で、痛みや不快感を伴い、授乳を継続しづらくなったり、母子の愛着形成に影響を及ぼしたりする可能性があります。乳腺炎になりやすい女性の特徴はまだ不明な点があり、我々はエコチル調査に参加した妊婦のデータを用いて、妊娠前のボディマス指数(BMI)と乳腺炎発症頻度との関連を調べました。産後の体重の測定は妊娠中の様々な影響を受けている可能性があり、妊婦の体格を反映しやすい妊娠前 BMI を検討に用いました。

方法:

エコチル調査に参加した妊婦のデータから、産後 1 か月時点で授乳を行っていた症例を対象とし、妊娠前の BMI と乳腺炎の発症頻度との関連について統計解析を行いました。妊娠前の BMI によって参加者を 3 つの群にわけ(18.5 kg/m² 未満、18.5-24.9 kg/m²、25.0 kg/m² 以上)、BMI が 18.5-24.9 kg/m² の群と比較して、それよりも BMI が小さい、もしくは大きい妊婦における乳腺炎の頻度が増えるかどうかを統計解析しました。

結果:

83,170 人の妊婦について解析を行いました。妊娠前の BMI が 25.0 kg/m² 以上の妊婦において、乳腺炎の頻度は約 0.752 倍であり、乳腺炎の頻度が有意に低いという結果でした。一方で、18.5 kg/m² 未満の妊婦では、乳腺炎の頻度と関連性は確認できませんでした。

考察(研究の限界を含める):

先行研究では、妊娠前の BMI が 25.0 kg/m² 以上の妊婦において授乳の中止率が高いことが報告されています。また、本研究において、妊娠前の BMI が 25.0 kg/m² 以上の妊婦では妊娠糖尿病や帝王切開術の頻度が増加しており、これらが乳汁分泌の遅延につながる可能性が考えられます。これらが乳腺炎の減少の原因と考えることもできますが、本研究では授乳をしている妊婦のみを対象としており、なぜ妊娠前の BMI が 25.0 kg/m² 以上の妊婦において乳腺炎が減少するのか、明らかな原因は不明です。本研究の限界点としては乳腺炎の発症に関連する、乳腺炎の既往や乳首の傷の有無、薬剤の使用などの情報が欠けているといった点があります。

結論:

妊娠前の BMI が 25.0 kg/m² 以上の妊婦において、乳腺炎の頻度が有意に低いことが分かりました。一方で、妊娠前の BMI が 18.5 kg/m² 未満の妊婦において、乳腺炎の頻度との関連性は確認できませんでした。本研究の結果は注意深い解釈が必要であり、妊娠前 BMI と乳腺炎の発症頻度との関連についてはさらなる研究が必要です。